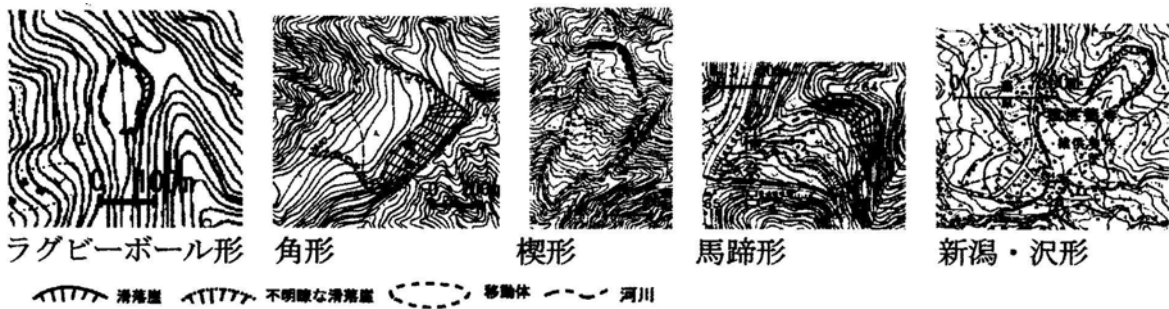


『2万5千分の1地形図「思地」南東部における秩父帯北帯の地すべりの特徴  
 —新潟第三紀層地すべりと比較して—』

畠山 敦雄

2万5千分の1地形図「思地」の南東部において地すべり分布図を作成した。その結果、ほかの地すべり多発地域ではあまり見られない地すべりの地形的特徴が認められた。

- 対象地域内において確認された地すべりの表面形状は馬蹄形 8ヶ所、角形 6ヶ所、楔形 1ヶ所、ラグビーボール形 10ヶ所である。地すべりの縦横比である表面形状比(L/W)は馬蹄形 0.29~1.83, 角形 0.67~1.2, 楔形 2.42, ラグビーボール形 0.54~1.0 であった。新潟第三紀層地すべりでは馬蹄形 1ヶ所、角形 1ヶ所、沢形 8ヶ所、表面形状比はそれぞれ 1.1, 1.5, 1.83~10.0 で楔形、ラグビーボール形の地すべりは形状が類似しているが、沢形は沢を形成しているのに対し、楔形は尾根を形成している。ラグビーボール形は皿を向かい合わせに張り合わせたような形状で、地すべり長に対して地すべり幅の大きなものが多い。



地すべり分布図によって確認された地すべりの表面形状の例

- 対象地域内の地すべりは尾根付近に滑落崖をもつ地すべりが多く、また、地すべり移動体が河川にまでは達していないものが多い。一方、新潟第三紀層地すべりでは地すべり滑落崖は尾根付近に限らないが、地すべり移動体は河川にまで達し、地すべり尖端が河川と一致しているものが多い。

